

大学発医療系スタートアップ支援プログラム

1. 創設年度：令和5年度

2. 令和8年度予算額：0円（令和6年度末基金残高：141億円）

※令和7年度末基金残高：115億円

3. 事業概要

医薬品等の実用化支援についてノウハウと実績のある橋渡し研究支援機関（文部科学大臣認定）から選抜した機関を通じ、柔軟かつ機動的な支援が可能な基金を活用して、大学発医療系スタートアップ起業のための専門的見地からの伴走支援や非臨床研究等に必要な費用の支援、医療ニーズを捉えて起業を目指す若手人材の発掘・育成を実施する。

<基金>

4. 選定理由：イ（事業の規模が大きく、又は政策の優先度の高いもの）

現在、成長戦略会議の創薬・先端医療WGで、AMEDと大学や製薬企業等との橋渡し等により我が国の優れたシーズの実用化を推進することの必要性が議論されており、本事業はそうしたシーズの実用化に資するものである。また、本事業はスタートアップの活用を促進する施策としても政策的な重要性が高い。以上を踏まえ、事業期間の折り返しを迎える現段階において、外部有識者の幅広い視点や専門性を活用して、今後の効果的な事業運営のあり方を検討することが有効であると考えられる。

5. 想定される論点

- ・ 事業成果検証のためのアウトプット、アウトカムは適切に設定されているか。
- ・ これまでの事業成果を踏まえた今後の事業展開の在り方について。

※ 成果指標（令和7年度）

（短期アウトカム）・活動拠点における支援シーズの採択数（件）

- ・ 3年度目に実施する中間評価において、期待どおりの進捗がなされていると評価された採択拠点の割合（%）

（中期アウトカム）・支援が終了した課題のうち、下記のイメージに達していると評価される課題の割合（シーズ枠（S0, S1, S2）ごと）（%）

シーズ S0：シーズ S1 へのステージアップ、支援終了時までに事業計画を策定し起業の見通しが立っていること、他事業への導出 等

シーズ S1：2年度目終了時のステージゲート時点までに事業計画の策定完了、その後、支援期間終了時まで

起業（民間資本構成が決まっていること）、民間からの資金調達に関して VC、CVC、事業会社等と対話を持つこと、実用化に向けて研究開発が進捗すること（非臨床 POC 取得、試験物製造法の確立、最終開発候補品の確定 等）

シーズ S2: 支援期間終了時までには自走可能な民間資金を獲得、早期から資金調達先となりうる機関等（VC、CVC、事業会社等）と対話を持つこと、実用化に向けて研究開発が進捗すること（非臨床 POC の取得、試験物の大量製造 等）

（長期アウトカム）・シーズ S 2 終了課題のうち、下記イメージに達し、更に自走可能な民間資金を獲得している課題の割合（%）

支援期間終了時までには自走可能な民間資金を獲得、早期から資金調達先となりうる機関等（VC、CVC、事業会社等）と対話を持つこと、実用化に向けて研究開発が進捗すること（非臨床 POC の取得、試験物の大量製造 等）

現状・課題

- 大学発医療系スタートアップは、**革新的な医薬品・医療機器の開発において欠かせない存在**であるが、開発段階で**治験等を見据えた薬事規制対応が必要**であり、**特別な支援が不可欠**
- 関係府省において推進しているが、**シード期（非臨床段階）にあたるスタートアップの起業に関する支援**などについては、未だ不十分

事業内容

事業実施期間

5年程度

大学発医療系スタートアップ起業に係る**専門的見地からの伴走支援**や**非臨床研究等に必要な費用の支援**、**医療ニーズを捉えて起業を目指す若手人材の発掘・育成**を実施するプログラムを新設。

- ✓ **橋渡し研究支援機関（文部科学大臣認定）**から選抜した機関に対し、大学発医療系スタートアップの起業に必要な専門的な支援や関係業界との連携を行うための**スタートアップ体制整備費を支援**。
- ✓ 機関では**3つのシーズ枠に分けて研究費等を支援**するとともに、**伴走支援**を実施。

シーズS0

起業を目指す若手研究人材を発掘・育成

シーズS1

起業を目指す課題を発掘・育成

シーズS2

起業直後でVC等の民間資金獲得を目指す課題

- R6年9月 事業実施機関として4機関の採択結果公表
- R6年10月以降順次支援課題の公募を実施

- ✓ 医療系スタートアップ支援の性質を踏まえ、**基金を活用して起業前から非臨床研究などに必要な資金を柔軟かつ機動的に支援**することで、シード期のスタートアップへの支援を強化

【本事業のスキーム】



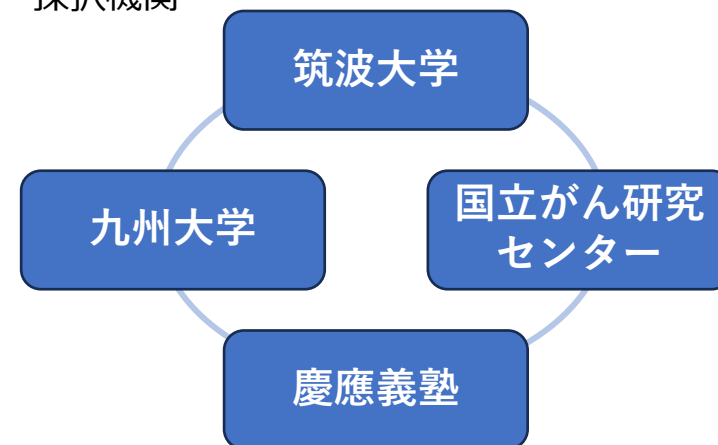
件数

4 機関程度

交付先

AMEDを通じて大学等を支援

採択機関



大学発医療系スタートアップ支援プログラム 補足説明資料

令和8年度行政事業レビュー外部有識者会合

令和8年5月13日

研究振興局ライフサイエンス課

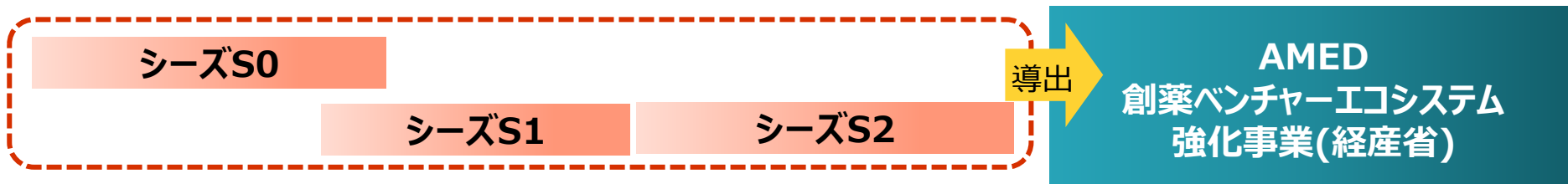
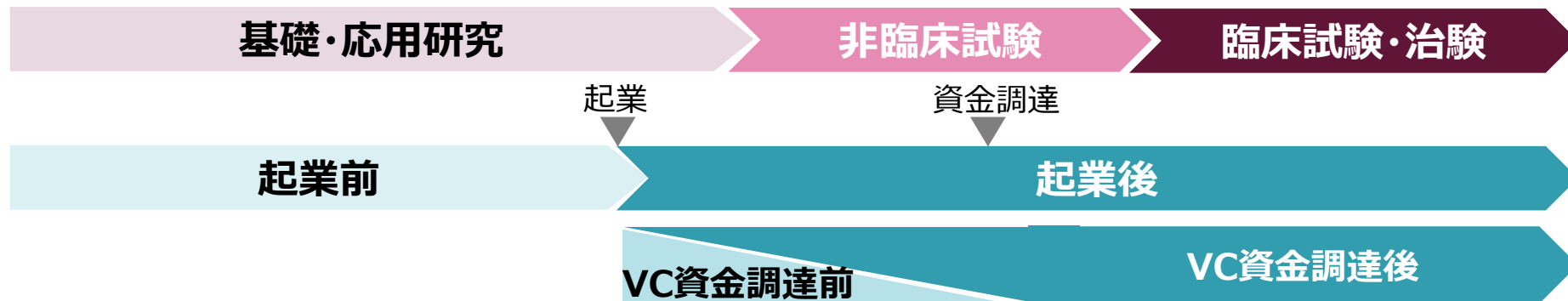
「大学発医療系スタートアップ支援プログラム」の経緯・位置付け

設立時の課題

- 近年、国際的にも医薬品産業の構造変革(水平分業化)が進展する中、大学発医療系スタートアップは、**革新的な医薬品・医療機器の開発のシーズを創出する欠かせない存在であるが、開発段階で治験等を見据えた薬事規制対応が必要であり、特別な支援が不可欠**
- 関係府省において推進しているが、**シード期（非臨床段階）にあたるスタートアップの起業に関する支援**などについては、未だ不十分



大学発医療系スタートアップ起業に係る**専門的見地からの伴走支援**や**非臨床研究等に必要な費用の支援**、**医療ニーズを捉えて起業を目指す若手人材の発掘・育成**を実施するプログラムを新設。

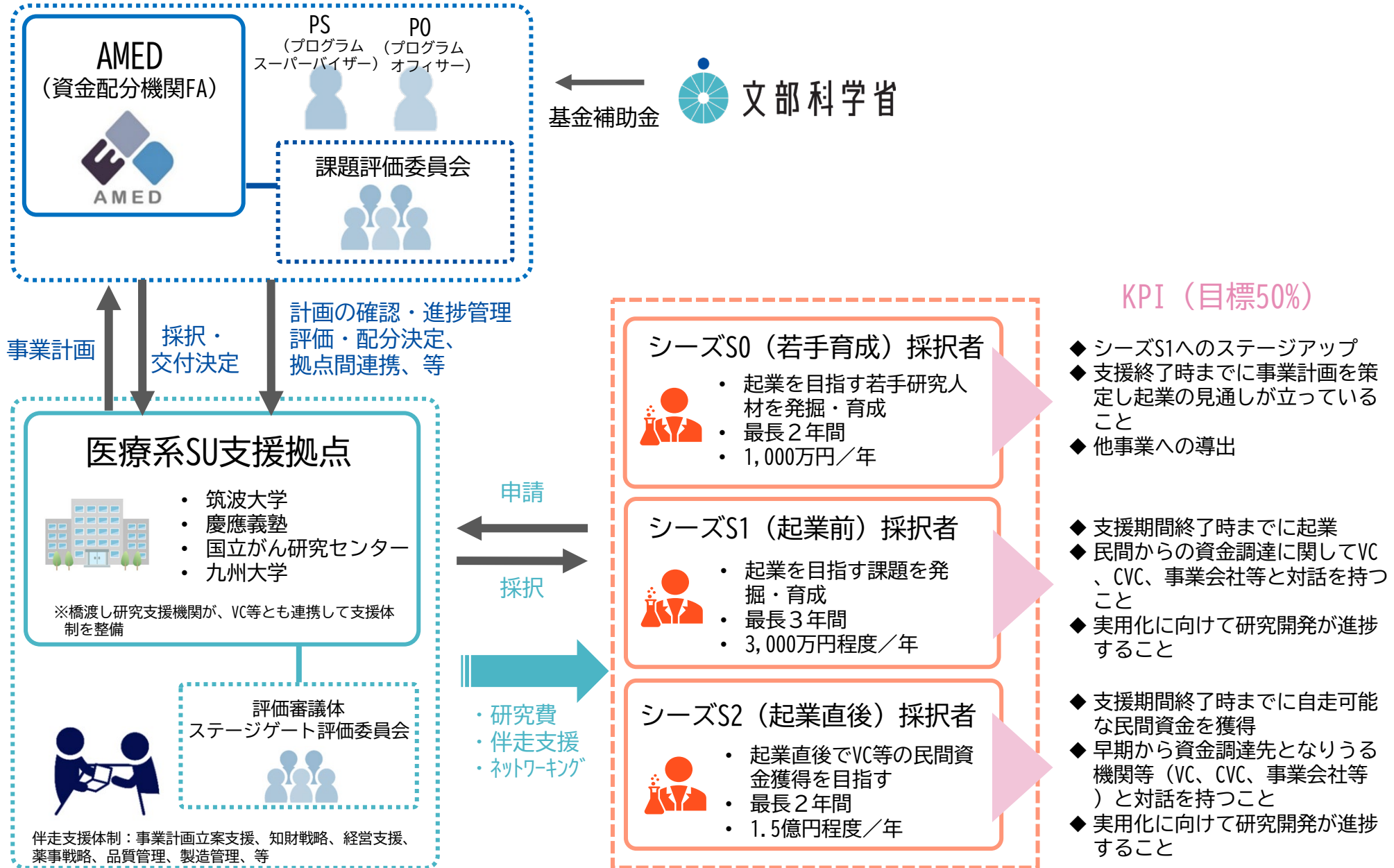


大学発医療系スタートアップ支援プログラム（文科省）

- ✓ R5年度補正152億円
- ✓ 3つのフェーズに分けて支援をするとともに、橋渡し研究支援機関（文科大臣認定）から選抜した機関が、これまで蓄積してきたノウハウや医師主導治験等の実績を活かしながら、専門的見地から伴走支援を行う
- ✓ すべてのシーズで、事業化マイルストーン及び研究開発マイルストーンを設定し、進捗を管理

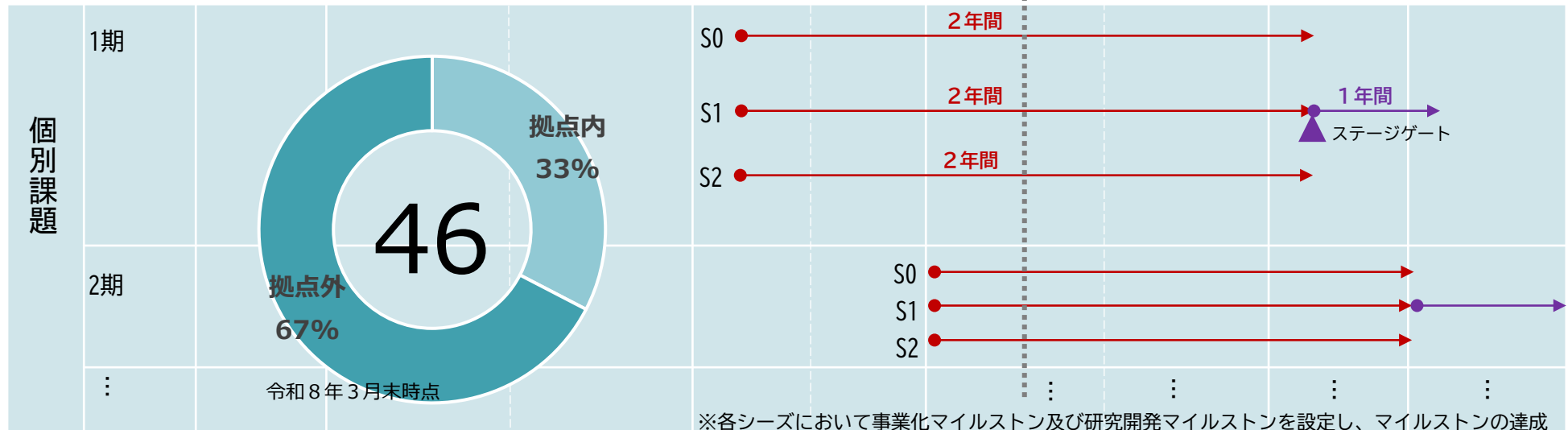
- ✓ R3年度補正 500億円
R4年度補正 3,000億円
- ✓ 創薬ベンチャーに対して、非臨床試験、第1相・第2相臨床試験を対象に、AMEDが認定したVCによる出資額の2倍相当の治験費用を支援する事業

大学発医療系スタートアップ支援プログラムの構成とKPI



大学発医療系スタートアップ支援プログラム 年表

		R5	R6	R7	R8	R9	R10
施策	文科省	11月 R5年度補正 予算成立	1月 基本的な考え方の審議 (ライフサイエンス委員会)		現在		中間評価 (ライフサイエンス 委員会)
	A M E D		3月 公募開始 6月～ 審査 8月 4拠点採択 10月 交付決定 (R6～8年度分)	PSP0会議等での進捗確認		10～12月 中間評価	中間評価を踏まえた 後半の資金配分



※各シーズにおいて事業化マイルストーン及び研究開発マイルストーンを設定し、マイルストンの達成が見込めなくなった時点で速やかに評価審議体に諮り、支援を終了する。

「大学発医療系スタートアップ支援プログラム」ロジックモデル (R5年度補正予算額:152億円)

現状・課題

- スタートアップを通じた医薬品・医療機器等の創出が世界的なトレンドとなっており、大学発医療系スタートアップは医療イノベーションに欠かせない存在である一方、開発段階から治験等を見据えた薬事規制対応が必要であり、特別な支援が不可欠である。
- 他方、日本では関係府省において医療系スタートアップへの支援を推進しているものの、シード期(非臨床段階)における伴走支援や資金提供については未だ不十分な状況にある。
- 大学等の研究シーズの実用化に向けては、文部科学省においてこれまで、「橋渡し研究プログラム」を通じ、医師主導治験や企業導出に向けた支援により一定の成果を挙げてきたが、同事業により蓄積されたノウハウや実績を活かしつつ、大学発医療系スタートアップへの支援を強化する必要がある。

本事業の目的

- 医療イノベーションの源である大学発医療系スタートアップの支援を通じ、大学等の優れた研究シーズを活用した革新的な医薬品・医療機器等の実用化を推進する。

アクティビティ

アウトプット (活動目標)

短期アウトカム (成果目標)

中期アウトカム (成果目標)

長期アウトカム (成果目標)

【大学発プログラム医療系スタートアップ支援プログラム】

R5年度補正予算額:152億円

- ▶ 大学発医療系スタートアップ起業に係る専門的見地からの伴走支援や非臨床研究等に必要費用の支援、医療ニーズを捉えて起業を目指す若手人材の発掘・育成を実施するため、橋渡し研究支援機関(文部科学大臣認定)から採択拠点を選抜き、補助を実施する。

- ▶ スタートアップの起業を支援する拠点を採択する。

活動指標:活動拠点数

活動・成果目標と実績:

2024年度

当初見込み/目標値(件):4

活動実績/成果実績(件):4

→2024年度に4拠点を採択済み

- ▶ プログラムの着実な実施

成果指標①

活動拠点における支援シーズの採択数

成果指標②

3年度目に実施する中間評価において、期待どおりの進捗がなされていると評価された採択拠点数の割合

KPI ①

- ▶ 革新的な医療系シーズの実用化開発が進展する。

成果指標

支援が終了した課題のうち、下記のイメージに達していると評価される課題の割合(シーズ枠(S0, S1, S2)ごと)

KPI ②

- ▶ 革新的な医療系シーズの実用化開発が進展する。

成果指標

シーズS2終了課題のうち、下記イメージに達し、更に自走可能な民間資金を獲得している課題の割合

KPI ③

測定指標と目標値

KPI ①

活動拠点における支援シーズの採択数【令和7年度目標:17件、実績:30件(R6年度採択16件、R7年度採択30件)】
3年度目に実施する中間評価において、期待どおりの進捗がなされていると評価(10段階評価で6点以上)された採択拠点数の割合【目標:75%】

KPI ②

支援が終了した課題のうち、下記のイメージに達していると評価される課題の割合(シーズ枠(S0, S1, S2)ごと)【目標:50%】

- ・シーズS0:シーズS1へのステージアップ、支援終了時まで事業計画を策定し起業の見通しが立っていること、他事業への導出 等
- ・シーズS1:2年度目終了時のステージゲート時点までに事業計画の策定完了、その後、支援期間終了時まで起業(民間資本構成が決まっていること)、民間からの資金調達に関してVC、CVC、事業会社等と対話を持つこと、実用化に向けて研究開発が進捗すること(非臨床POC取得、試験物製造法の確立、最終開発候補品の確定 等)
- ・シーズS2:支援期間終了時まで自走可能な民間資金を獲得、早期から資金調達先となりうる機関等(VC、CVC、事業会社等)と対話を持つこと、実用化に向けて研究開発が進捗すること(非臨床POCの取得、試験物の大量製造 等)

KPI ③

シーズS2終了課題のうち、下記イメージに達し、更に自走可能な民間資金を獲得している課題の割合【目標:50%】

- ・支援期間終了時まで自走可能な民間資金を獲得、早期から資金調達先となりうる機関等(VC、CVC、事業会社等)と対話を持つこと、実用化に向けて研究開発が進捗すること(非臨床POCの取得、試験物の大量製造 等)

大学発医療系スタートアップ支援プログラムのこれまでの成果事例

人材育成の取組例

【慶應義塾】 SPARK Keio

- ・橋渡し研究活動を包括支援するエコシステム構築の一環として、Stanford大学のSPARKプログラムからのノウハウや手法の導入を進め、SPARK Keioを開始した。
- ・採択チームだけではなく、SPARK Keioメンバー、産業界アドバイザーが「相互に学び、共同で実践するコミュニティ」を通じて橋渡し研究を推進し、主に起業前のシーズ（シーズS0/S1）に対して包括的な支援を継続的に提供する。



2025年11月にはスタンフォード大にて Bootcampを実施



慶應義塾大学のHP (<https://innov.keio.ac.jp/startup/topics/1400/>) より引用

スタートアップの取組例（シーズS2）

CrestecBio社、1.5億円の資金調達を実施 開発品目「CTB211」

概要：
筑波大学で研究された、活性酸素種（ROS）を消去し神経細胞を保護する効果が期待されている高分子医薬品「CTB211」を開発し、医療系スタートアップ支援拠点（筑波大学）にてシーズS2に採択・支援中のCrestecBio社が、シードラウンドの1st closeとして、総額1.5億円の資金調達を実施。虚血性脳卒中に対する神経保護薬としての臨床試験開始に向け、非臨床試験および治験薬の製造準備等を加速予定。

研究代表者：丸島 愛樹
開発企業：CrestecBio株式会社
支援期間：2025年～



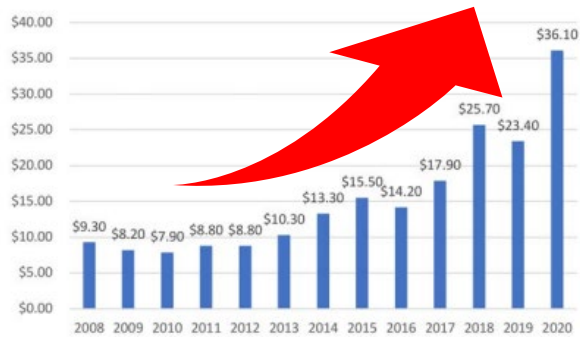
2025.12.9 CrestecBio株式会社のプレスリリースに基づき作成

參考資料

医療系スタートアップを取り巻く背景

- 近年、米国における医療分野に対するVC投資は急増しており、医療系スタートアップは世界的なトレンド
- 一方、医療系スタートアップの設立件数について、日本は米国、英国及びドイツと比べて大きく遅れ
- 世界のスタートアップのうち、ヘルスケア・バイオ・創薬等の医療分野は数割程度である一方、大学発スタートアップに限ると、5割強が医療分野であり、医療分野においては、大学発スタートアップが重要
- 我が国発の革新的新薬等を創出するため、大学発スタートアップの有望なシーズを実用化につなげることが重要

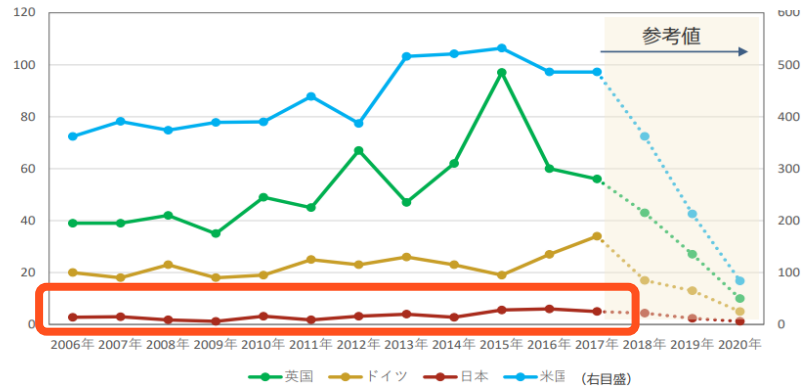
米国の医療分野に対するVC投資の推移



(単位：\$B) 出典：NVCA-2021-Yearbook

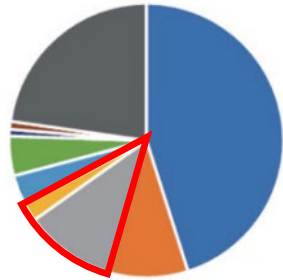
単位：社
米国は右側を取る

世界のスタートアップの設立件数の推移 (国別)



注1) 2017年以降設立件数が減少しているのは、データベースの特性上、最近2、3年の間に設立したベンチャーを補足しきれていないためと考えられる。
注2) Crunchbaseにおいて日本のベンチャーの収録率が低いことも考えられ、厳密な国際比較は難しい。
出所) Crunchbaseデータベースをもとに三菱総合研究所において集計
出典：医療系ベンチャーに関する情報収集・基礎調査の結果概要 2021年3月
(医療系ベンチャー・トータルサポート事業にかかる総合調査業務一式)

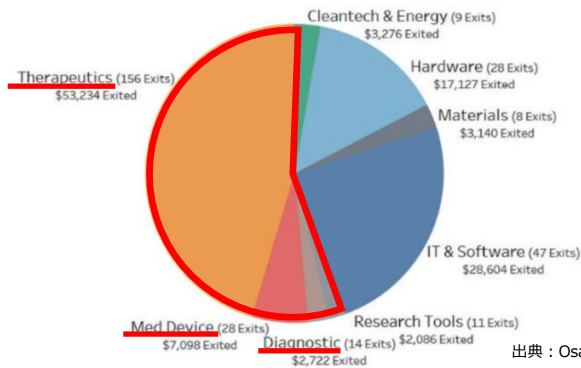
世界のスタートアップの分野別割合



出典：Crunchbaseを基にCRDSが作成

- ソフトウェア・IT
- 創薬・バイオ
- 化学・材料・デバイス
- ハードウェア
- 環境・エネルギー
- アグリ
- ヘルスケア
- 輸送
- その他

大学発スタートアップの分野別割合

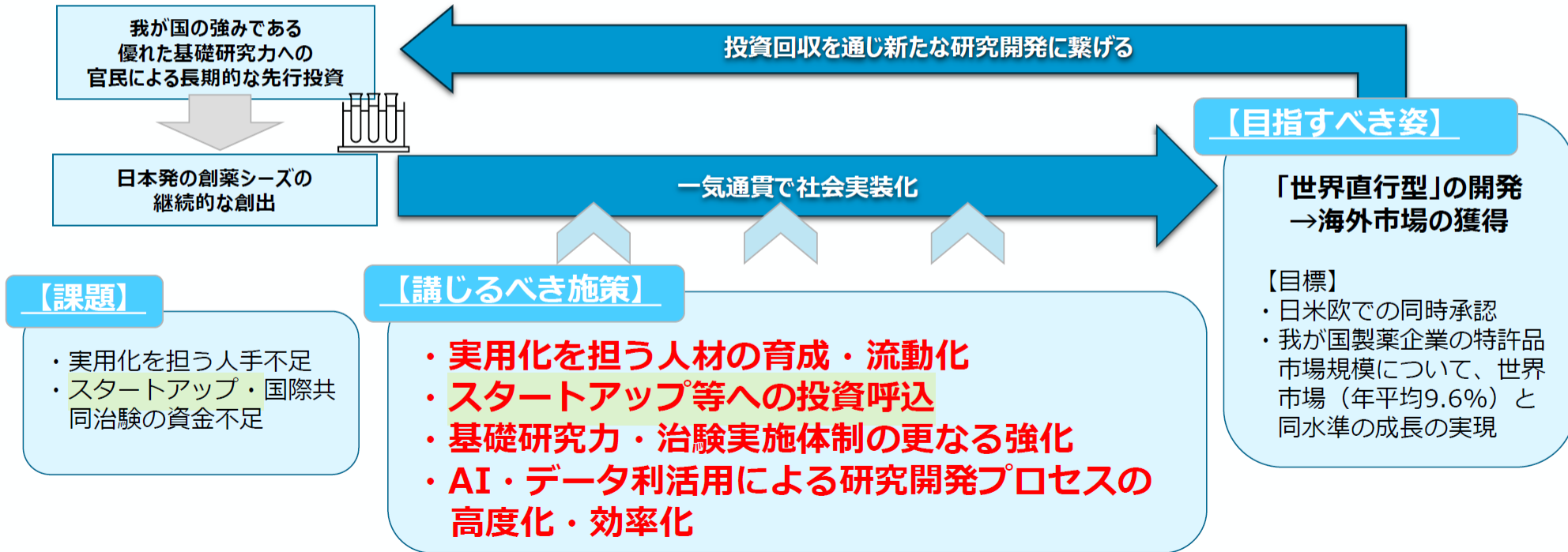


出典：Osage University Partners

創薬・先端医療
ファーストインクラス製品・ベスト
インクラス製品

方向性

- 基礎研究力や高品質な治験の強みを活かし、実用化を担う人材の育成・流動性向上や、リスクマネーの呼び込み等によるスタートアップや国際共同治験における資金面・制度面の課題解消を図る。
- これにより、新たな創薬シーズの創出から実用化まで一気通貫で進める環境を整備し、需要が拡大する海外市場の獲得につなげる「世界直行型」の開発を実現する。



筑波大学 S0:5件, S1:5件, S2:3件

R8.3.31現在

代表機関・代表者	テーマ	S0	S1	S2
千葉大学・小川良磨	スタートアップに向けた早期リンパ浮腫診断装置の開発			
筑波大学・森川翔平	次世代強膜内陥術を可能にする非侵襲眼内照明装置の開発			
東京理科大学・高橋秀依	オピオイド急性中毒治療薬の開発			
東京理科大学・川越文裕	フッ素化低分子化合物を活用した眼科疾患治療薬の創出			
産業技術総合研究所・高松利寛	近赤外内視鏡技術による手術・診断支援システムの開発			
筑波大学・平野有沙	睡眠相前進型概日リズム睡眠障害治療薬の開発			
北里大学・藤岡正人	非公表			
北里大学メディカルセンター・福山隆	がん特異的抗原を標的とした治療/診断技術開発			
筑波大学・熊田博明	つくば型BNCT治療システムの事業化			
国立健康危機管理研究機構・氣駕恒太郎	ファージによる革新的抗菌ソリューションの開発			
CrestecBio株式会社・丸島愛樹	脳と臓器を護る高分子医薬 –脳卒中再灌流障害治療薬の開発–			
株式会社Vesica Japan・池田篤史	膀胱がんの見落としを防ぐリアルタイム膀胱内視鏡検査支援システムの開発・事業化			
VentEase株式会社・篠倉啓純	人工呼吸器患者を救う革新的横隔神経刺激デバイス			












国立がん研究センター S0:3件, S1:6件, S2:2件

R8.3.31現在

代表機関・代表者	テーマ	S0	S1	S2
愛知工業大学・宮本寛子	腫瘍治療を指向した核酸医薬用ナノテクノロジーの開発			
東京科学大学・本田雄士	ポリフェノール導入高分子/金属イオン錯体DDSを用いた細胞内標的抗体医薬の創製			
東京科学大学・持田祐希	がん選択的な集積性と活性化機構を備えるPEG修飾タンパク質医薬の実用化研究			
がん研究会・清宮啓之	抗悪性腫瘍薬RK-582の実用化を目指すスタートアップの設立			
鳥取大学・中村貴史	難治性がんに対する次世代ウイルス療法の開発と事業化推進			
大阪大学・山本浩文	がんの核酸医薬のデリバリーに適したDDSの開発			
国立がん研究センター・中面哲也	術後残存がん細胞を駆逐してがんを再発させないユニバーサルがん抗原カクテルmRNAワクチン療法の開発			
国立がん研究センター・吉見昭秀	新規標的がんmRNAワクチンの社会実装プロジェクト			
東京大学・竹谷純一	がん治療における血圧管理の革新：非侵襲・連続血圧モニタリングが可能なスマートフィルムデバイスの開発			
株式会社アンチキャンサーテクノロジズ・中山敬一	難治性がんに対する革新的代謝阻害薬の原薬製造			
貫セラピューティクス合同会社・石原純	改変抗 CTLA4 抗体の腫瘍送達と 2 年間でのヒト臨床での確認			

慶應義塾 S0:5件, S1:4件, S2:2件

R8.3.31現在

代表機関・代表者	テーマ	S0	S1	S2
藤田医科大学・國澤和生	末梢炎症因子を標的とした難治性うつ病の治療薬開発と事業化検証			
産業技術総合研究所・津村遼介	排尿筋括約筋協調不全に対する磁力尿道拡張に関する研究開発			
慶應義塾大学・柚崎通介、高杉聡	シナプスを標的とした慢性掻痒および慢性疼痛治療薬に関する研究開発			
慶應義塾大学・伊藤雄介	卵巣癌に対する薬剤送達能搭載CAR-T 細胞療法の開発			
東京慈恵会医科大学・小松鉄平	抗不溶性フィブリン抗体ウロキナーゼ融合体による脳梗塞治療薬の研究開発			
大阪公立大学・松本弦	認知症の経口治療薬に関する研究開発			
東京科学大学・長野拓也	SpaceORAL：舌がん定位放射線治療用サクシオン固定型スペーサーと口腔内マーカーの開発			
東京科学大学・三浦裕	非公表			
慶應義塾大学・籠谷勇紀	膠芽腫を標的とした疲弊耐性CAR-T細胞療法の開発			
株式会社SMILE CURVE・野口昌克	思春期側弯症を被ばくなく早期発見・経過観察を可能とする革新的な検査システム構築に向けた研究開発			
JANE Therapeutics株式会社・夏目徹	筋ジストロフィーの根本治療を目指す遺伝子治療薬の開発			

九州大学 S0:6件, S1:4件, S2:1件

R8.3.31現在

代表機関・代表者	テーマ	S0	S1	S2
国立がん研究センター・水野優	防ぎえた失明をゼロにする、小型眼底カメラと緑内障診断支援AIの研究開発			
名古屋大学・大石俊輔	合成エラスチンによる生体模倣型小口径人工血管の開発			
徳島大学・齋藤裕	低免疫原性かつ簡便に移植可能な超高機能肝細胞様細胞の創出			
山口大学・森田知佳	新規繊毛膜操作技術による多発性嚢胞腎の克服			
佐賀大学・村田大紀	新たな半月板再建技術の確立に向けた起業挑戦			
九州大学・二井偉暢	着床率改善に向けた胚培養液の開発			
九州大学・石川邦夫	炭酸アパタイトを主軸とする感染フリー骨再生			
九州大学・宮本圭	高発生能ヒト受精卵を超早期に選抜する技術の実用化開発			
九州大学・村田正治	尿路上皮癌の早期診断に向けた尿中活性型PKCa検出キットの開発			
鹿児島大学・池田正徳	新規オートファジー活性化薬による革新的な広域抗ウイルス治療			
株式会社クロバーナ・伊藤達男	RNA構造異常を標的とする革新的ALS治療ASOの実用化開発：CLV-201の非臨床～臨床橋渡し研究			

大学発医療系スタートアップ支援プログラム

基本情報

組織情報	府省庁	文部科学省				
	事業所管課室	文部科学省 研究振興局 ライフサイエンス課				
	作成責任者	倉田佳奈江				
	その他担当組織	--				
基本情報	予算事業ID	019745	基金シート番号	1504	枝番	2
	基金の名称	革新的研究開発推進基金				
	基金の造成法人等の名称	国立研究開発法人日本医療研究開発機構	法人形態	国立研究開発法人		
	造成法人等の選定方法及び選定理由等	本事業は医薬品・医療機器等の実用化開発を実施するものであり、医療分野の研究開発を担うAMED以外に適切な基金設置法人として該当するものが無いことから、科学技術イノベーション活性化法第27条の2に基づき基金設置法人に指定。(予算措置より指定)				
	造成法人等の適格性	AMEDは基礎から実用化までの一貫した医療分野の研究開発の推進と、その成果の円滑な実用化を図る専門性を有しており、公募、採択、採択後の課題管理などの業務の効率的な遂行が期待されることから基金設置法人として適切であると考えられる。				
	基金事業・基金の造成法人等への調査・検査等の実施状況	国立研究開発法人日本医療研究開発機構は、科学技術・イノベーション創出の活性化に関する法律（平成二十年法律第六十三号）第27条の3の規定に基づき、毎事業年度、革新的研究開発推進業務の報告書を作成し、文部科学大臣に報告するとともに、文部科学省においても文部科学大臣の意見を付して国会報告を行う予定				
	運営形態	取崩し型	事業形態	補助		
関連事業	--					

概要・目的	事業の目的	医療イノベーションの源である大学発医療系スタートアップの支援を通じ、大学等の優れた研究シーズを活用した革新的な医薬品・医療機器等の実用化を推進する。			
	現状・課題	スタートアップを通じた医薬品・医療機器等の創出が世界的なトレンドとなっており、大学発医療系スタートアップは医療イノベーションに欠かせない存在である一方、開発段階から治験等を見据えた事業規制対応が必要であり、特別な支援が不可欠である。 他方、日本では関係府省において医療系スタートアップへの支援を推進しているものの、シード期（非臨床段階）における伴走支援や資金提供については未だ不十分な状況にある。 大学等の研究シーズの実用化に向けては、文部科学省においてこれまで、「橋渡し研究プログラム」を通じ、医師主導治験や企業導出に向けた支援により一定の成果を挙げてきたが、同事業により蓄積されたノウハウや実績を活かしつつ、大学発医療系スタートアップへの支援を強化する必要がある。			
	事業の概要	医薬品等の実用化支援についてノウハウと実績のある橋渡し研究支援機関（文部科学大臣認定）から選抜した機関を通じ、柔軟かつ機動的な支援が可能な基金を活用して、大学発医療系スタートアップ起業のための専門的見地からの伴走支援や非臨床研究等に必要な費用の支援、医療ニーズを捉えて起業を目指す若手人材の発掘・育成を実施する。			
	事業概要URL	--			
	基金方式の必要性	基金事業の類型	その他	スタートアップは必ずしも定期的に一定数が創業されるものではなく、また、医療分野では多様なモダリティ（低分子医薬、抗体医薬、医療機器、再生医療等）が存在し、各モダリティや対象疾患等により研究開発に必要な金額は大きく異なる一方、市場動向は数年単位で大きく変化することが知られている。 このため、各年度の所要額は変動しかつ予測困難であり真に革新的な医薬品等の創出に向け、効率的・効果的にスタートアップを支援するため、柔軟な執行及び複数年度の財源の確保を可能とする基金による実施が必要。	

事業開始年度	2023
--------	------

終了予定時期	基金事業の終了予定時期	2029-03-31
	補足理由	--
	期間中に終了予定時期を変更した場合、その経緯と理由	--
	基金事業の新規申請受付終了時期	2025-03-31
	補足理由	--
期間中に新規申請受付終了時期を変更した場合、その経緯と理由	--	

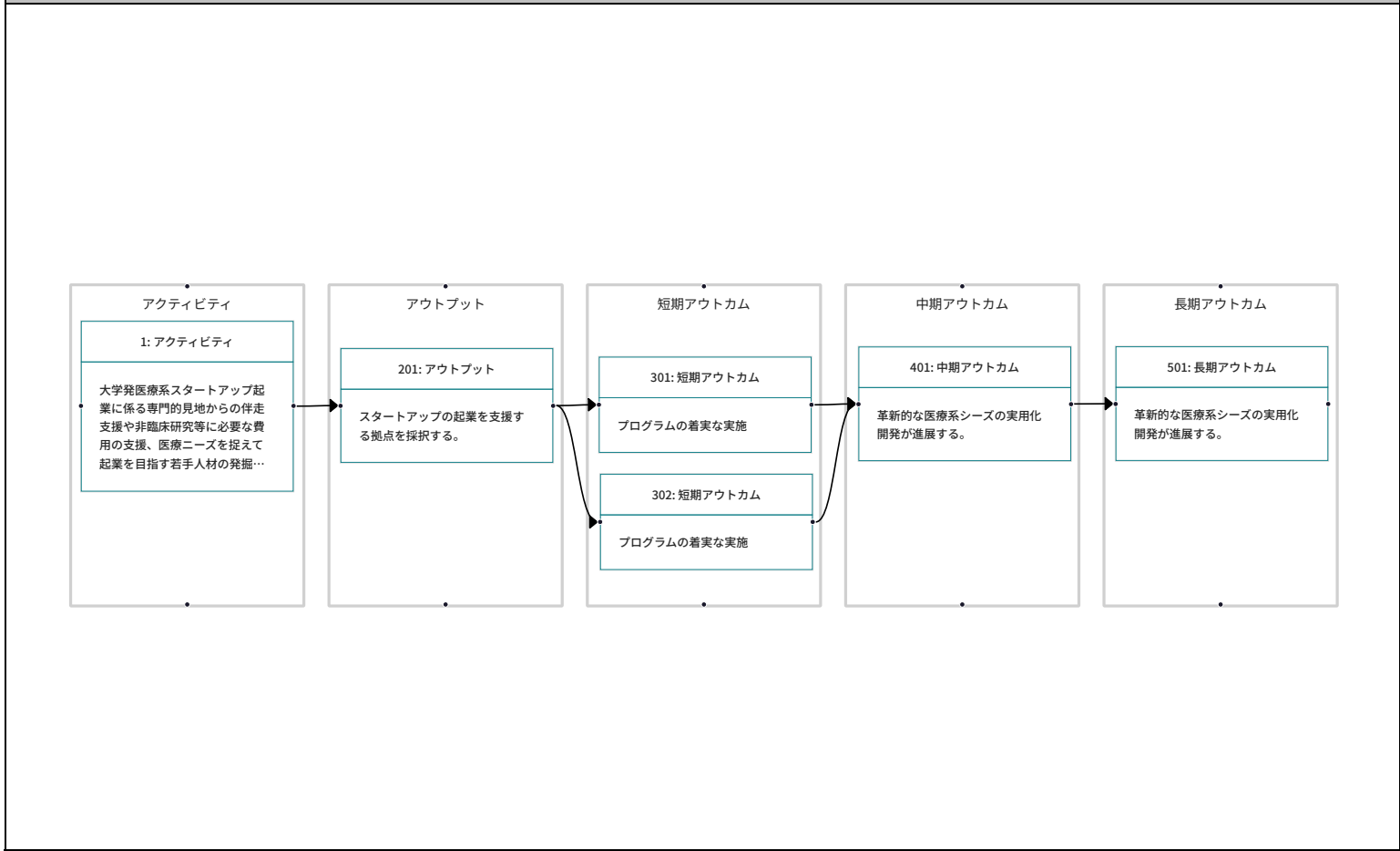
根拠法令	法令名	法令番号	条	項	号・号の細分
	科学技術・イノベーション創出の活性化に関する法律	平成二十年法律第六十三号	第二十七条の二	--	--
	国立研究開発法人日本医療研究開発機構法	平成二十六年法律第四十九号	第十七条の二	2	--
	革新的研究開発推進基金設置規程 規程第8号				
関係する計画・通知等	計画・通知名	計画・通知等URL			
	経済財政運営と改革の基本方針（令和5年6月16日閣議決定）	https://www5.cao.go.jp/keizai-shimon/kaigi/cabinet/honebuto/2023/2023_basicpolicies_ja.pdf			
	新しい資本主義のグランドデザイン及び実行計画2023改訂版（令和5年6月16日閣議決定）	https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/atarashii_sihonsyugi/pdf/ap2023.pdf			
	デフレ完全脱却のための総合経済対策（令和5年11月2日閣議決定）	https://www5.cao.go.jp/keizai1/keizaitaisaku/2023/20231102_taisaku.pdf			
備考	--				

基金経過

基金の造成の経緯	予算措置年度	基金造成年度	資金交付の形態	会計区分	当初・補正・予備費等	
	2023	2023	直接交付	一般会計	補正（第1号）	
	原資となった資金の名称		一般会計 / 文部科学省 / 文部科学本省 / 研究開発推進費 / 革新的研究開発推進基金補助金			
	原資となった資金の名称の補足情報		--			
	国費額（単位：千円）		15,220,000	補助金適正化法 適用の有無	有	
	関連するレビューシート		作成年度	2023	事業名	大学発医療系スタートアップ支援プログラム
基金への予算措置（管理費のみの予算措置を除く）	基金の分類	基金への新たな予算措置は3年程度として、成果目標の達成状況を見て、次の措置を検討する事業				
	直近の予算措置年度	2023年度				
	予算措置理由及び成果目標の達成状況・検証結果	<p>（1）既存の枠組みとの違い・新たな枠組みとする理由 「医療分野研究開発推進計画」（令和2年3月27日健康・医療戦略推進本部決定、令和3年4月6日一部変更）において、「基金や政府出資を活用して中長期の研究開発を推進する」とされており、既存の基金事業の枠組み（メニュー）では政府出資を活用した産学官共同での医薬品・医療機器の研究開発等に向けた取組を実施していた一方、医薬品や医療機器等の開発・実用化のために不可欠な大学発医療系スタートアップの支援に向けた取組を実施していなかった。 今般、未だ不十分なシード期のスタートアップへの支援強化を図るため、大学発医療系スタートアップ起業に係る専門の見地からの伴走支援や非臨床研究等に必要費用の支援、医療ニーズを捉えて起業を目指す若手人材の発掘・育成を実施する新たな枠組み（既存基金への新たな事業（メニュー）の追加）として措置した。</p> <p>（2）他の枠組みと区別して経理を行うための具体的な方法 本事業は、本基金の他の枠組みと別勘定で管理している訳ではないが、AMEDにおける経理処理にあたっては、交付要綱に記載のとおり、当該業務以外の経理とは帳簿等を明確に区分し、その収入及び支出を明らかにした帳簿を備え、当該収入及び支出について証拠書類を整理し、善良な管理のもとで執行している。 また、文部科学省においても、事業の進捗状況を随時ヒアリングするとともに、各事業年度の報告書により、業務に係る収入・支出及びその内訳、基金の保有割合等を精査し、適正な経理が行われていることを確認している。</p> <p>（3）予算措置期間、額の妥当性 予算措置期間は2023年度から2028年度までとしており、成果目標の達成状況を確認できるような期限を設定している。額についてはアカデミアやベンチャーキャピタル等の有識者へのヒアリング及び医療系の研究開発課題における起業意思の状況等を踏まえ、必要な支援額として設定している。</p>				
	次回予算措置検討年度	予算措置については今後検討				
国庫返納の経緯	年度	国庫返納額（単位：千円）	理由			
	--	--	--			

<p>基金事業のこれまでの取組とその成果、過去に実施した見直しの概要</p>	<p>令和6年3月に国立研究開発法人日本医療研究開発機構に基金を積み増した。基金の積み増し後、令和6年度に事業実施機関として4機関を採択し、順次支援課題の公募を実施している。</p> <p>また、「基金の点検・見直しの横断的な方針について」（令和5年12月20日行政改革推進会議決定）に基づき、基金の総点検を行った結果、基金事業の終了予定時期や定量的な短期アウトカム・長期アウトカムをそれぞれ設定し、より一層の明確化を図った。</p>
<p>補助金適正化法施行令第4条2項各号で定める事項</p>	<p>革新的研究開発推進基金補助金交付要綱 (交付の条件)</p> <p>第5条 この補助金の交付の決定には、次の条件が付されるものとする。</p> <p>六 事業により造成される基金は、国からの補助金を財源としているものであることに鑑み、その活用にあたっては、次に掲げる事項に対応しなければならない。</p> <p>イ 基金は、善良な管理者の注意をもって管理し、基金の目的に反して、基金を取り崩し、処分し、又は担保に供してはならない。</p> <p>ロ 基金の運用によって生じた利子その他の収入金は、科学技術・イノベーション創出の活性化に関する法律（平成20年法律第63号。以下「科技イノベ活性化法」という。）第27条の2第2項に基づき、基金に充てるものとする。</p> <p>ハ 基金の廃止後においても、機構が基金により研究開発事業に係る経費を配分した機関からの返還が生じた場合には、これを国庫に納付しなければならない。</p> <p>ニ 業務の経理について、当該業務以外の経理と明確に区分し、その収入及び支出を明らかにした帳簿を備え、当該収入及び支出について証拠書類を整理し、かつ当該帳簿及び証拠書類を基金廃止後5年間保管しなければならない。</p> <p>ホ 機構は、科技イノベ活性化法第27条の3第1項の規定に基づき、毎事業年度、次の事項を記載した当該業務に関する報告書を作成し、当該事業年度の終了後6か月以内に大臣に提出しなければならない。</p> <p>(1) 基金の額（年度末残高及び国費相当額） (2) 業務に係る収入・支出及びその内訳（今後の見込みを含む） (3) 研究開発事業の実施決定件数・実施決定額 (4) 保有割合 (5) 保有割合の算定根拠 (6) 研究開発事業の目標に対する達成度</p> <p>へ 取崩し見込みがないなど基金の余剰額が明らかに見込まれる場合には、大臣は、基金の廃止前であっても当該余剰額を国庫に納付させることができる。</p> <p>ト 基金を廃止する場合には、廃止するときに保有する基金の残余額を大臣に報告し、その指示を受けて国庫に納付しなければならない。</p>

効果発現経路
活動・成果目標等のつながり



アクティビティからの発現経路 1-201-301-401-501

アクティビティ	大学発医療系スタートアップ起業に係る専門的見地からの伴走支援や非臨床研究等に必要となる費用の支援、医療ニーズを捉えて起業を目指す若手人材の発掘・育成を実施するため、橋渡し研究支援機関（文部科学大臣認定）から採択拠点を選抜し、補助を実施する。			
アウトプット	活動目標	スタートアップの起業を支援する拠点を採択する。	活動指標	活動拠点数
	定性的なアウトカムに関する成果実績	--	実績／目標／見込みの根拠として用いた統計・データ名（出典）	--
	定性的なアウトカム目標を設定している理由	--	アウトカムを複数段階で設定できない理由	--
活動・成果目標と実績			2024年度	2025年度
	当初見込み／目標値(件)		4	4
	活動実績／成果実績(件)		4	--
後続アウトカムへのつながり	本事業では医薬品等の実用化支援についてノウハウと実績のある橋渡し研究支援機関（文部科学大臣認定）に、スタートアップの起業に必要な専門的支援や関係業界との連携等を行うためのスタートアップ支援体制の機能を付加することで、スタートアップを介した研究成果の実用化を目指す大学等の優れた研究シーズをこれまで以上に全国から広く発掘し、育成に取り組む。このため、以下の短期アウトカムを設定する。			
短期アウトカム	成果目標	プログラムの着実な実施	成果指標	活動拠点における支援シーズの採択数
	定性的なアウトカムに関する成果実績	--	実績／目標／見込みの根拠として用いた統計・データ名（出典）	活動拠点のシーズ支援を強化・促進するため、各活動拠点においてR6年度採択件数（S0:6件、S1:6件、S2:4件の合計16件）を超えることを目標として設定した。
	定性的なアウトカム目標を設定している理由	--	アウトカムを複数段階で設定できない理由	--
活動・成果目標と実績			目標年度 2025年度	
	当初見込み／目標値(件)		17	
	活動実績／成果実績(件)		--	
	達成率(%)		--	
後続アウトカムへのつながり	本事業では各採択拠点が整備した伴走支援体制及びそれらを活用した医薬品等の実用化に向けた伴走支援活動の結果、個別課題において各支援枠の中で求められる支援終了後のイメージへの到達が期待される。このため、以下の中期アウトカムを設定する。			

中期アウトカム	成果目標	革新的な医療系シーズの実用化開発が進展する。	成果指標	支援が終了した課題のうち、下記のイメージに達していると評価される課題の割合（シーズ枠（S0,S1,S2）ごと） ・シーズS0：シーズS1へのステージアップ、支援終了時までに事業計画を策定し起業の見通しが立っていること、他事業への導出 等 ・シーズS1：2年度目終了時のステージゲート時点までに事業計画の策定完了、その後、支援期間終了時までには起業（民間資本構成が決まっていること）、民間からの資金調達に関してVC、CVC、事業会社等と対話を持つこと、実用化に向けて研究開発が進捗すること（非臨床POC取得、試験物製造法の確立、最終開発候補品の確定 等） ・シーズS2：支援期間終了時までには自走可能な民間資金を獲得、早期から資金調達先となりうる機関等（VC、CVC、事業会社等）と対話を持つこと、実用化に向けて研究開発が進捗すること（非臨床POCの取得、試験物の大量製造 等）		
	定性的なアウトカムに関する成果実績	--	実績／目標／見込みの根拠として用いた統計・データ名（出典）	成果実績は採択課題への進捗確認等を通じて把握・集計する。現在はシーズS0,S1,S2いずれの課題も支援が継続中であるため、実績値は空欄としている。		
	定性的なアウトカム目標を設定している理由	--	アウトカムを複数段階で設定できない理由	--		
活動・成果目標と実績			2024年度	2025年度	2026年度	目標年度 2027年度
	当初見込み／目標値(%)		--	--	--	50
	活動実績／成果実績(%)		--	--	--	--
	達成率(%)		--	--	--	--
後続アウトカムへのつながり	本事業では採択拠点のマネジメントのもと、医薬品等の実用化に向けた課題の発掘、選定と並行して薬事規制対応など医療分野特有の支援も含め、スタートアップに必要な伴走支援や非臨床研究等に必要となる費用を柔軟かつ機動的に支援する。こういった一連の支援の結果、起業直後のスタートアップが策定する事業戦略がVC等に評価され、自走可能な民間資金を獲得する段階に至ることが本事業の目指すところであるため、以下の長期アウトカムを設定する。					

長期アウトカム	成果目標	革新的な医療系シーズの実用化開発が進展する。		成果指標	シーズS2終了課題のうち、下記イメージに達し、更に自走可能な民間資金を獲得している課題の割合 ・支援期間終了時点で自走可能な民間資金を獲得、早期から資金調達先となりうる機関等（VC、CVC、事業会社等）と対話を持つこと、実用化に向けて研究開発が進捗すること（非臨床POCの取得、試験物の大量製造 等）	
	定性的なアウトカムに関する成果実績	--		実績/目標/見込みの根拠として用いた統計・データ名（出典）	文部科学省の調査（一般的な医療系ベンチャーの研究開発状況やヒアリング、類似のスタートアップ支援策の目標等を基に設定）。現在のところシーズS2終了課題はないため、実績値は空欄としている。	
	定性的なアウトカム目標を設定している理由	--		アウトカムを複数段階で設定できない理由	--	
活動・成果目標と実績		2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	最終目標年度 2028年度
	当初見込み/目標値(%)	--	--	--	--	50
	活動実績/成果実績(%)	--	--	--	--	--
	達成率(%)	--	--	--	--	--

アクティビティからの発現経路 1-201-302-401-501

アクティビティ	大学発医療系スタートアップ起業に係る専門的見地からの伴走支援や非臨床研究等に必要となる費用の支援、医療ニーズを捉えて起業を目指す若手人材の発掘・育成を実施するため、橋渡し研究支援機関（文部科学大臣認定）から採択拠点を選抜し、補助を実施する。					
アウトプット	活動目標	スタートアップの起業を支援する拠点を採択する。		活動指標	活動拠点数	
	定性的なアウトカムに関する成果実績	--		実績/目標/見込みの根拠として用いた統計・データ名（出典）	--	
	定性的なアウトカム目標を設定している理由	--		アウトカムを複数段階で設定できない理由	--	
活動・成果目標と実績		2024年度		2025年度		
	当初見込み/目標値(件)			4	4	
	活動実績/成果実績(件)			4	--	
後続アウトカム ↓へのつながり	本事業では医薬品等の実用化支援についてノウハウと実績のある橋渡し研究支援機関（文部科学大臣認定）に、スタートアップの起業に必要となる専門的支援や関係業界との連携等を行うためのスタートアップ支援体制の機能を付加することで、スタートアップを介した研究成果の実用化を目指す大学等の優れた研究シーズをこれまで以上に全国から広く発掘し、育成に取り組む。このため、以下の短期アウトカムを設定する。					
短期アウトカム	成果目標	プログラムの着実な実施		成果指標	3年度目を実施する中間評価において、期待どおりの進捗がなされていると評価された採択拠点数の割合	
	定性的なアウトカムに関する成果実績	--		実績/目標/見込みの根拠として用いた統計・データ名（出典）	成果実績は課題評価委員会による中間評価を通じて把握。令和8年度（2026年度）に課題評価委員会による中間評価が実施されるため、実績値は空欄としている。	
	定性的なアウトカム目標を設定している理由	--		アウトカムを複数段階で設定できない理由	--	
活動・成果目標と実績		2024年度		2025年度		目標年度 2026年度
	当初見込み/目標値(%)	--		--		75
	活動実績/成果実績(%)	--		--		--
	達成率(%)	--		--		--
後続アウトカム ↓へのつながり	本事業では各採択拠点が整備した伴走支援体制及びそれらを活用した医薬品等の実用化に向けた伴走支援活動の結果、個別課題において各支援枠の中で求められる支援終了後のイメージへの到達が期待される。このため、以下の中期アウトカムを設定する。					

中期アウトカム	成果目標	革新的な医療系シーズの実用化開発が進展する。			成果指標	<p>支援が終了した課題のうち、下記のイメージに達していると評価される課題の割合（シーズ枠（S0,S1,S2）ごと）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シーズS0：シーズS1へのステージアップ、支援終了時までに事業計画を策定し起業の見通しが立っていること、他事業への導出 等 ・シーズS1：2年度目終了時のステージゲート時点までに事業計画の策定完了、その後、支援期間終了時までに起業（民間資本構成が決まっていること）、民間からの資金調達に関してVC、CVC、事業会社等と対話を持つこと、実用化に向けて研究開発が進捗すること（非臨床POC取得、試験物製造法の確立、最終開発候補品の確定 等） ・シーズS2：支援期間終了時までに自走可能な民間資金を獲得、早期から資金調達先となりうる機関等（VC、CVC、事業会社等）と対話を持つこと、実用化に向けて研究開発が進捗すること（非臨床POCの取得、試験物の大量製造 等）
	定性的なアウトカムに関する成果実績	--			実績／目標／見込みの根拠として用いた統計・データ名（出典）	成果実績は採択課題への進捗確認等を通じて把握・集計する。現在はシーズS0,S1,S2いずれの課題も支援が継続中であるため、実績値は空欄としている。
	定性的なアウトカム目標を設定している理由	--			アウトカムを複数段階で設定できない理由	--
活動・成果目標と実績		2024年度	2025年度	2026年度	目標年度 2027年度	
	当初見込み／目標値(%)	--	--	--	--	50
	活動実績／成果実績(%)	--	--	--	--	--
	達成率(%)	--	--	--	--	--
↓ 後続アウトカムへのつながり	<p>本事業では採択拠点のマネジメントのもと、医薬品等の実用化に向けた課題の発掘、選定と並行して業事規制対応など医療分野特有の支援も含め、スタートアップに必要な伴走支援や非臨床研究等に必要となる費用を柔軟かつ機動的に支援する。こういった一連の支援の結果、起業直後のスタートアップが策定する事業戦略がVC等に評価され、自走可能な民間資金を獲得する段階に至ることが本事業の目指すところであるため、以下の長期アウトカムを設定する。</p>					

長期アウトカム	成果目標	革新的な医療系シーズの実用化開発が進展する。			成果指標	<p>シーズS2終了課題のうち、下記イメージに達し、更に自走可能な民間資金を獲得している課題の割合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支援期間終了時までに自走可能な民間資金を獲得、早期から資金調達先となりうる機関等（VC、CVC、事業会社等）と対話を持つこと、実用化に向けて研究開発が進捗すること（非臨床POCの取得、試験物の大量製造 等）
	定性的なアウトカムに関する成果実績	--			実績／目標／見込みの根拠として用いた統計・データ名（出典）	文部科学省の調査（一般的な医療系ベンチャーの研究開発状況やヒアリング、類似のスタートアップ支援策の目標等を基に設定）。現在のところシーズS2終了課題はないため、実績値は空欄としている。
	定性的なアウトカム目標を設定している理由	--			アウトカムを複数段階で設定できない理由	--
活動・成果目標と実績		2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	最終目標年度 2028年度
	当初見込み／目標値(%)	--	--	--	--	50
	活動実績／成果実績(%)	--	--	--	--	--
	達成率(%)	--	--	--	--	--
事業に関連するKPIが定められている閣議決定等	名前	--				
	URL	--				
	該当箇所	--				

収入・支出等

収入・支出等 (単位：千円)		2023	2024	当年度見込み	翌年度見込み
前年度末基金残高		--	15,220,001	14,135,045	11,376,137
収入	国からの資金交付額	15,220,000	--	--	--
	運用収入	1	14,454	34,192	27,900
	(うち国費相当額)	--	--	--	--
	事業収入	--	--	--	--
	(うち国費相当額)	--	--	--	--
	その他	--	--	--	--
	合計額	15,220,001	14,454	34,192	27,900
支出	事業費	0	1,053,842	2,643,100	3,151,066
	管理費	0	45,568	150,000	150,000
	(管理費率)	--	4.1%	5.4%	4.5%
	(うち基金設置法人の事務費)	0	5,987	44,400	44,400
	(うち基金設置法人の人件費)	0	39,582	105,600	105,600
	合計額	0	1,099,410	2,793,100	3,301,066
国庫返納額		--	--	--	--
その他返納額		--	--	--	--
当年度末基金残高		15,220,001	14,135,045	11,376,137	8,102,971
(うち国費相当額)		15,220,001	14,135,045	11,376,137	8,102,971
基金設置法人の事務人件費 (当該基金からの支出を除く)	事務費	--	--	--	--
	人件費	--	--	--	--
	合計額	--	--	--	--

執行の乖離の状況 (単位：千円)	2023 (前々年度)	事業費見込み	--	事業費	0
		乖離額	0	乖離率	--
	【乖離の理由等】				
	--				
	2024 (前年度)	事業費見込み	840,000	事業費	1,053,842
		乖離額	△213,842	乖離率	△25.5%
【乖離の理由等】					
--					

実績

補助等に関する 交付決定実績 (単位：千円) ※ () 内は件数	--														
	交付決定年度	交付決定額						支出年度							
		実績		見込み		2022		2023		2024		2025見込み		2026以降(見込み)	
	2022実績	(--)	--	(--)	--	(--)	--	(--)	--	(--)	--	(--)	--	(--)	--
	2023実績	(--)	--	(--)	--	(--)	--	(--)	--	(--)	--	(--)	--	(--)	--
	2024実績	(4)	7,796,836	(4)	8,000,000	(--)	--	(--)	--	(4)	1,053,842	(4)	2,643,101	(4)	4,099,894
	2025見込み	(--)	--	(--)	--	(--)	--	(--)	--	(--)	--	(--)	--	(--)	--
2026見込み	(--)	--	(4)	5,093,800	(--)	--	(--)	--	(--)	--	(--)	--	(4)	5,093,800	

保有割合

保有割合	1.00	①保有割合の分子(保有基金額等)	14,135,045	②保有割合の分母(基金事業に要する費用)	14,135,045					
	①保有基金額等の内容	令和6年度末基金残高								
	②基金事業に要する費用の内容	基金事業として必要な額								
	算出根拠に用いた事業見込みの考え方(計算式・内容)	令和7年度以降支出見込み額 = (A) + (B) (A) 令和7年度以降に予定している事業費 (B) 令和7年度以降の管理費								
事業見込みに用いた指標の積算根拠	事業費の執行見込み額：13,535百万円 (筑波大学：2,852百万円、国立がん研究センター：3,129百万円、慶應義塾：2,923百万円、九州大学：2,932百万円、PSPO裁量経費等：1,699百万円) 管理費の執行見込み額：600百万円									
事業見込みに用いた指標の直近における実績	事業費の令和6年度執行額：1,054百万円 管理費の令和6年度執行額：46百万円									
使用見込みの低い基金等の該当の有無と検討結果等	①事業を終了した基金	無	②前回の見直し以降事業実績がない基金 又は直近3年以上事業実績がない基金	無	③基金造成時の政策目的がなくなった基金 又は変更になった基金	無	④保有割合が「1」を大幅に上回っている基金	無	⑤その他使用見込みが低いと判断される基金	無
	保有割合が「1」を上回り、④で「無」とした場合、その理由	--								
	使用見込みの低い基金等に該当する場合の検討結果	--								
	使用見込みの低い基金等を残置する場合の理由	--								

点検・評価

基金所管部局による点検・改善結果	点検結果	各アクティビティの実施に向け、国立研究開発法人日本医療研究開発機構において、所要のプロセスを速やかに進めている。また、成果目標・保有資金の規模ともに事業目的と整合しており、採択機関の決定後、着実な事業の実施が期待される。
	目標年度における効果測定に関する評価	--
	改善の方向性	上記の点検を踏まえつつ、同事業の目的を達成するため、予算を効果的かつ適切に執行していく。
外部有識者の所見	○短期アウトカム指標を3年度目の中間評価結果とした場合、3年度目まで実績が開示されない。プログラムの着実な実施に係る指標として、中間評価結果以外に、採択拠点で支援したスタートアップ/若手人材の対象数等を指標として設定する等、事業の進捗状態を複数の指標で丁寧に説明することが必要ではないか。	
行政事業レビュー推進チームの所見に至る過程及び所見	○外部有識者のコメントを踏まえ、短期アウトカムに採択拠点で支援したスタートアップや若手人材の対象数等を設定することについて検討すること。 ○執行の乖離の状況について、2024年度（前年度）は事業費見込みを上回る事業費実績となっているが、今後の事業費見込み及び保有割合の算出に当たっては、過去の支出実績や研究開発の進捗状況等を踏まえた精度の高い算出を行うなどの改善に努めること。 ○保有割合の算出に当たっては、事業見込みの算出根拠について、4つの活動拠点ごとの支出見込額を記載するなど、より詳細な情報開示に努めること。	
所見を踏まえた改善点	○短期アウトカムの見直しを行い、プログラムの着実な実施に係る指標として「活動拠点における支援シーズの採択数」を設定した。 ○保有割合における事業見込みの算出根拠について、4つの活動拠点ごとの支出見込額を記載した。 ○引き続き、事業費見込み及び保有割合の算出にあたっては、過去の支出実績や研究開発の進捗状況等を踏まえた精度の高い算出を行うよう努めていく。	

支出先

支出先上位者リスト（前年度における各ブロックへの支出） （単位：千円）	支出先ブロック名	合計支出額	支出先数	事業を行う上での役割
	A 国立研究開発法人日本医療研究開発機構	0	1	事業の造成を行う
	支出先名	支出額	法人番号	
	国立研究開発法人日本医療研究開発機構	0	9010005023796	
	契約概要（契約名）/契約方式等	支出額		
	大学発医療系スタートアッププログラムの実施補助金等交付	0		
	支出先ブロック名	合計支出額	支出先数	事業を行う上での役割
	B 国立大学法人筑波大学ほか	1,053,842	4	実用化支援
	支出先名	支出額	法人番号	
	国立大学法人筑波大学	406,588	5050005005266	
	契約概要（契約名）/契約方式等	支出額		
	国際展開を目指した医療系スタートアップの育成拠点補助金等交付	406,588		
	支出先名	支出額	法人番号	
	慶應義塾	377,188	4010405001654	
	契約概要（契約名）/契約方式等	支出額		
慶應義塾スタートアップ推進拠点（Keio Biomedical Accelerator）構築による革新的医療シーズの早期社会実装と、大学発スタートアップ・エコシステムの創成補助金等交付	377,188			
支出先名	支出額	法人番号		
国立研究開発法人国立がん研究センター	170,720	6010005015219		
契約概要（契約名）/契約方式等	支出額			

支出先ブロック名		合計支出額	支出先数	事業を行う上での役割
	サイエンスでがん医療の未来を創造する大学発医療系スタートアップ支援拠点 補助金等交付	170,720		
	支出先名	支出額	法人番号	
	国立大学法人九州大学	99,346	3290005003743	
	契約概要（契約名）/契約方式等	支出額		
	総合知を新医療へ、九州・沖縄・西日本を挙げてアジアへ繋がる医療系スタートアップエコシステムの構築 補助金等交付	99,346		
支出先ブロック名		合計支出額	支出先数	事業を行う上での役割
C	国立大学法人長崎大学ほか	19,670	2	研究開発の実施
	支出先名	支出額	法人番号	
	国立大学法人長崎大学	16,500	3310005001777	
	契約概要（契約名）/契約方式等	支出額		
	感染症シーズの評価・支援体制の整備、およびシーズ創出 随意契約（公募）	16,500		
	支出先名	支出額	法人番号	
	CrestecBio株式会社	3,170	7050001050289	
	契約概要（契約名）/契約方式等	支出額		
	脳と臓器を護る高分子医薬－脳卒中再灌流障害治療薬の開発－ 随意契約（公募）	3,170		

費目・用途（前年度における各ブロックからの支出） （単位：千円）	支出先名	契約概要（契約名）	費目	用途	金額
A	国立研究開発法人日本医療研究開発機構	大学発医療系スタートアッププログラムの実施	補助金	医療分野の研究開発	1,053,842
--	--	--	人件費・謝金	人件費・謝金	42,408
--	--	--	会議費	会場費・消耗品等	1,895
--	--	--	旅費	旅費	1,265
B	国立大学法人筑波大学	国際展開を目指した医療系スタートアップの育成拠点	委託費	研究開発・事業化の実施（受託者：研究実施機関）	353,100
--	--	--	その他	起業に関する研修開催経費等	19,800
--	--	--	人件費・謝金	人件費・謝金	17,275
--	--	--	旅費	旅費	10,550
--	--	--	一般管理費	一般管理費	4,863
--	--	--	物品費	設備備品、消耗品等の購入費用	1,000
C	国立大学法人長崎大学	感染症シーズの評価・支援体制の整備、およびシーズ創出	その他	シーズ評価のための調査外注費等	4,852
--	--	--	旅費	旅費	4,019
--	--	--	人件費・謝金	人件費・謝金	3,500
--	--	--	物品費	設備備品、消耗品等の購入費用	2,629
--	--	--	一般管理費	一般管理費	1,500

資金の流れ
(単位:千円) ※ 2024 (令和6年度実績) を記入

